

AAS NEWS (Vol. 61)

発行日 令和8年1月1日（年2回発行）

新年明けましておめでとうございます。

ネパールヒマラヤは世界中からトレkkerや登山隊を惹きつけてやみません。昔から日本人をはじめ山好きの人たちのメッカとなっていました。われわれ協力隊員はテレビも無い娯楽の少ない任地の生活で活動していました。その中で一ヶ月もある秋のダサイン祭の長期休暇を利用して、世界に名だたるヒマラヤトレッキングに行くことが一つのブームでした。

近々孟夏の水田でおびたしい雑草を前に気合いを入れる時、作業後の筋肉の痛みを感じる時、思いだすのは体力満々だった若き日のラグビーのキックオフの緊張と、そしてネパールトレッキングの歩きです。当時の手帳が見つからず、少し怪しい記憶ですがトレッキングの道中をセピア色になった写真と共にお伝えします。



トレッキング 1984-1985

隊員6人とポーター1人、街道の村で
(果樹、理数科2、土木施工、理数科、森林)



【カラパタール 1984】昭和58年3次隊の隊員5名と4次隊隊員の一名（ぼく）は東部ジリを経由してエベレスト街道を登るゴールデンルートのトレッキングに出かけました。メンバーの任地で一番高地にいるのが1800mの村の土木施工(水道)隊員のぼくで、そして森林経営のN氏（以下N氏）、果樹隊員と理数科教師隊員は低地在住だったので。ほぼ同年代の六人は、特に誰がリーダーということは無く、3週間程度の山歩きを楽しみました。

ぼくはヒマラヤのふもとの村で毎週のように3千メートル級の峠を越えて、ソールクンブ郡庁やプロジェクト候補村

に出張する、まさに山歩きが仕事のような隊員活動でしたので、当然このトレッキングには自信を持って参加したのです。

「メンバーを先導するリーダーは自分だ!」

とにかく山歩きには自信を持っていました。

ユニセフ水道プロジェクトでは単独出張することが多く、簡易浄水器を含む15kgのバックパックで、ガイド無しでマイペースの山歩きをしていました。



近村の少女ポーターたちは陽気



久木朋子さん「トレッキング」メモより
タンボチェでポテ犬と記念撮影



ルクラ 2840m

標高はカトマンズで買った地図を参考にしています。

このトレッキングチームで雇った2人

のポーターは、ルートのガイド役と六人分の荷物を少しずつまとめて運んでもらうために頼みました。ポーターを生業としている村人は力持ちが多く、30kgに制限されている荷物を楽々と、急な山道も走るように移動します。写真の少女たちも親の手伝いでほかのトレkkerたちの荷物を運んでいました。

エベレスト街道はロードヘッド（バス終点）のジリを起点にしたルクラ（空港）ーナムチェバザールーカラパタールのヒマラヤ展望までの標準ルートですが、道中に案内標識は無く、一旦道に迷ったら連絡手段もなく大事です。ガイドは必要でした。ジリルクラ間はコスト節約も兼ねた4、5日の歩きです。隊員手当は当時240ドル（4万円相当でネパール国会議員と同程度）ですが、カトマンズルクラの空路は高額ですので、片道（帰り）のみの選択肢となります。

ナムチェバザール 3440m への上りは道中で一番の坂が続きますが、道の途中でアマ



黒っぽい 8848m エベレスト ヌプチェ 7861m の方が高く見える

ダブラムはじめヒマラヤの勇姿が見え隠れします。N 氏に「あれがエベレストか？」と何度も訊いたため、ひんしゆく①を買います。自称屈強な水道隊員としてはここでバテるわけにはいきません。なんとかシェルパの村ナムチェバザールに到着、高度順応のため 1 日休みます。ここからタンボチェーパンボチェーペリチェーロブチェ経由で標高 5550m のカラパタール展望地へのルートを富士山 3776m を超える標高をはい上がっていきます。

カラパタールはその名の通り黒っぽい尾根で、7165m のプモリの直下にあり、ここで撮影した一枚です。かなりの高地の尾根からでも、世界最高峰のエベレストがヌプツェより低く見えるのが残念ですが…。峰の頂きが夕焼けに染まり始めるまでの静寂の時間の中で天空の浄土にいるかのような錯覚を覚えました。自我を忘れるある意味危険な時間帯でした。5600m からの展望の片隅、見下ろす氷河の下端にたたずんでいた雲がいつの間にか高度を上げてきて、ぼくと同行の N 氏をみるみる包み始めていることに気づき、慌てて夕暮れのプモリ南陵カラパタールを降りることにしました。しかし、エベレストの魅力にとりつかれた二人にヒマラヤの神々が危険な試練をもたらしました。

高所での移動はゆっくりゆっくりという大原則を破り、その日の宿泊予定のゴラクシェプ 5140m までの 450m の急降下、道なき山道を駆け下りてしまいました。ロッジ到着後、悪夢の一夜がはじまります。夕食も食べられず、苦しい呼吸が回復しません。脈を調べるとチェーンストーク（脈動中断）が頻発します。酸素の少ないこの高所で一晩中眠れず、いざというときの救急へりを要請するか何度も真剣に考えました。過去に高山病で亡くなった隊員もこんな苦しみだったのか。息苦しさを我慢して耐え抜いた翌朝、朝日の中で大げさですが生きる喜びを感じました。翌朝の酸素不足で顔がむくむ写真です。



パンパンにむくんだ朝

「もっと高く」と標準の 5550m 地点を目標とする 4 人と別動して、標高 5600m を目指したぼくに同行した N 氏は何事もなかったかのように食事をしていました。彼は高度順応に優れた、すばらしい体力の持ち主だったのです。自己責任である高山病予防について不注意だった自分ですので、彼の優しい言葉はありませんでした、それをもし言葉にしたらひんしゆく②を買っていたでしょう。

道に迷うリスクを避けるための急ぎの下山があればほど体の負担になるとは…。山村 1800m の水道隊員生活は高度順応の役に立たなかったのか。標高を下げて酸素濃度を高めるべきと思いながら、歩くペースは自分だけゆっくりとみんなについて第 2 の目的地チェクン 4730m に向かいました。チームの他の 5 人は口数が少ないものの元気でした。

チェクン滞在中にだんだん呼吸が楽になり、やっと呼吸ペースが戻りました。チェクン宿泊の夜、月明かりがあったのかローチェ・ヌプチェ・エベレストの薄く白い山容からグラデーションで漆黑につながる満天の星空を目の当たりにしました。いまでもその内院の景観が脳裏に鮮明にのこる一生の体験でした。

道中で多くの外国人トレkkerと出会いました。片言の英語ですが、国際交流を楽しみました。一人トレックのカナダの女性にチヤドカン（休憩所）で

(Are you head?)と訊かれ、なんのこっちゃと一瞬戸惑いましたが、グループの先



帰路のルクラ空港で

頭か？とわかり、Yes, I am head, ...I obey you. (従う)と「一緒に行こうよ」のつもりで応えてしまい、これを訊いていた英語達者なN氏のひんしゅく③を買いました。「obeyではなく少なくともfollowだろう！」…恥を搔いてもこの際英会話の練習をするのだと、明るく美しくたくましいカナダ女性と小1時間ほどトレッキングを楽しみました。しばらくするとルート

トはずれ道の脇の灌木の方に一人で向かいます。何でだろうとついて行くとキツとにらまれたのでやっとトイレだと気づきました。場を読めないで、I am sorry, 彼女からは後日、「カナダからののはがき」をもらいました。

トレッキング中に実感できたことは、「高山に行くと人の本性があらわれる」という説が本当だということです。他力本願で人に頼る人は誰かが違う道を進んでもボーと黙ってついていくような、また、エゴイストで怒りっぽう人はチームでさらに孤立するような…。さて、ところでぼくの本性は何でしょう？



















【ゴーキョ 1985】

なんとしてもエベレストが一番高く見える角度から展望したい、写真が欲しい。翌年のダサイン休暇を使った単独、二度目のトレッキングに向かいました、前年のカラパタール 5600m から今度は西のゴーキョピーク 5357m を目指します。

この年のヒマラヤは雪が多く、ゴーキョも雪の中でした。ゴーキョ湖は凍らずに、深い青の湖面が広がっていました。被写体がすばらしいためか、ぼくのカメラでもいい写真が撮れました。小石を積み上げてセルフタイマー撮影も成功。ヤッケをそり代わりにして 600m の標高差をボブスレー滑走しました。高度順応も OK！温暖化で氷河湖の決壊が心配された時代でした。麓に住む村人が今でも心配です。



奨学生リスト

AICHI ASIA SCHOLARSHIP 2025 STUDENTS REMITTANCE CHECK LIST : (2025.12.12支給)						
番号	氏名		写真	クラス	支給額 Rs	住所 (address) 電話(contact No.)
1	生徒名	Pujan Tamang プジャン・タマン		7	6000	
	学校所在地	Lele レレ				
2	生徒名	Sahara Pariyar サハラ・パリヤル	No photo	10	9000	
	口座名	Mina Pariyar				
3	学校所在地	Tulsipur トウルシプール		10	9000	
	生徒名	Reshma Ramtel レッシュマ・ラムテル				
4	学校所在地	Kathmandu カトマンズ		9	8400	
	生徒名	Anjali Basnet アンジャリ・バスネット				
5	学校所在地	Nale (ナレ)		9	8400	
	生徒名	Laxmi Tamang ラクシュミ・タマン				
6	学校所在地	Kathmandu (カトマンズ)		9	8400	
	生徒名	Nanumaya Jirel ナヌマヤ・ジレル				
7	学校所在地	Jiri ジリ		9	8400	
	生徒名	Amish Jirel アミッシュ・ジレル				
8	学校所在地	Jiri ジリ		8	6600	
	生徒名	Isara BK イサラ・ビーケー				
9	学校所在地	Tulsipur トウルシプール	No photo	6	6000	
	生徒名	Jharana BK ジャラナ・BK				
10	学校所在地	Tulsipur トウルシプール		8	6600	
	生徒名	Anita Budhatoki アニタ・ブダトキ				
11	学校所在地	Tulsipur トウルシプール		8	6600	
	生徒名	Karna Karki カルナ・カルキ				
12	学校所在地	Pokhara ポカラ		8	6600	
	生徒名	Binesh Ram Chamar ビネッシュ・ラム・チャマル				
13	学校所在地	Kathmandu カトマンズ		8	6600	
	生徒名	Ashika Jirel アシカ・ジレル				
14	学校所在地	Jiri ジリ		7	6000	
	生徒名	Pratiksha Jirel プラティクシャ・ジレル				
15	学校所在地	Jiri ジリ		7	6000	
	生徒名	Shristi Budhathoki スリスティ・ブダトキ				
16	学校所在地	Tulsipur トウルシプール		8	6600	
	生徒名	Babita Budha バビタ・ブダ				
17	学校所在地	Lele レレ		9	6600	
	生徒名	Samjhana Gurung サムジャナ・グルン				
18	学校所在地	Samjhana Chaudhary		7	6000	
	生徒名	Puratika Kumal				
19	学校所在地	Tulsipur トウルシプール	No photo	7	6000	
	生徒名	Soniya Thapamagar ソニヤ・タハマガール				
20	学校所在地	Rumjatar ルムジャタル		8	6600	
	生徒名	Sarada Darjee サラダ・ダルジ				
21	学校所在地	Rumjatar ルムジャタル		8	6600	
	生徒名	Rumjatar ルムジャタル				
Total					140,400	
6-7class 1000Rs/month						
8 class 1100Rs/month						
9 class 1400Rs/month						
10 class 1500Rs/month						
				1st remittance:1st/Jun⇒1st/July		
				2nd remittance 1st/Dec		

令和7年の一年間に会費をいただいた方々です。

(敬称略)

工藤隆久・河田恵子・鎌谷啓行・大木伸浩・榊原周造・毛利桂子・山本明・伊藤玲子・木下美保・室田育代・水野秀彦

ご寄付をいただいた方々です。

大木伸浩・山本明・室田育代・榊原周造

※40年前のトレッキングの詳細は精査できておりません。記憶不足と個人情報の取扱についてご容赦ください。

AICHI-ASIA-SCHOLARSHIP 愛知・アジア・スカラーシップ
(2026年調査旅行は5月中～下旬を予定しています)